

---

## 分娩介助をする良いタイミングとは？

---

お産は、分娩房の利用など飼養管理の充実したなかで、母子ともに無事な自然分娩であることが望ましいものです。しかし、分娩房のお産でも、介助が必要になる場面もあります。そこで今回は、分娩介助のタイミングと事故との関係について説明します。

### ■ 分娩予定日が近づいてきたら…

いつもより注意して観察しましょう。

### ■ 分娩の兆候が見られたら…

落ち着きがなくなったり、寝起きを繰り返したりしたら分娩の兆候です。陣痛が始まり、それに伴って産道が徐々に開いてきています。胎子は分娩に備えて体勢を変えているところです。

この時期は、介助するタイミングではありません。一次破水が起きるまでは、まだ、通常3-6時間かかります。尿溝にふたをする、清潔でよく乾燥した敷料を多めに入れてあげる等、母牛が安全快適に分娩できる環境を整えてあげましょう。

### ■ 6時間経っても破水が起こらなかったら…

母牛に陣痛はありますか（いきんでいますか）？ 母牛は立てますか？

消毒液で十分に陰部を洗った上、直腸検査用ビニール手袋をつけて、産道に静かに手を入れてみてください。胎子に触れますか？ 産道は十分開いていますか？

すべて問題なければもうしばらく（2時間程度）様子を見てみましょう。

何か変だなと感じることが少しでもあれば、獣医師に相談しましょう。

### ■ 一次破水したら…

母牛の陣痛がより一層強くなり胎子が産道内へ進んでくると、胎子を覆う一番外側の袋（尿膜）が破れ、水のようさらっとした液体が出てきます。これが一次破水といわれるものです。一次破水をする段階では、袋をかぶった胎子の足（足胞）が産道へ進んできています。

この時期も、まだ介助するタイミングではありません。

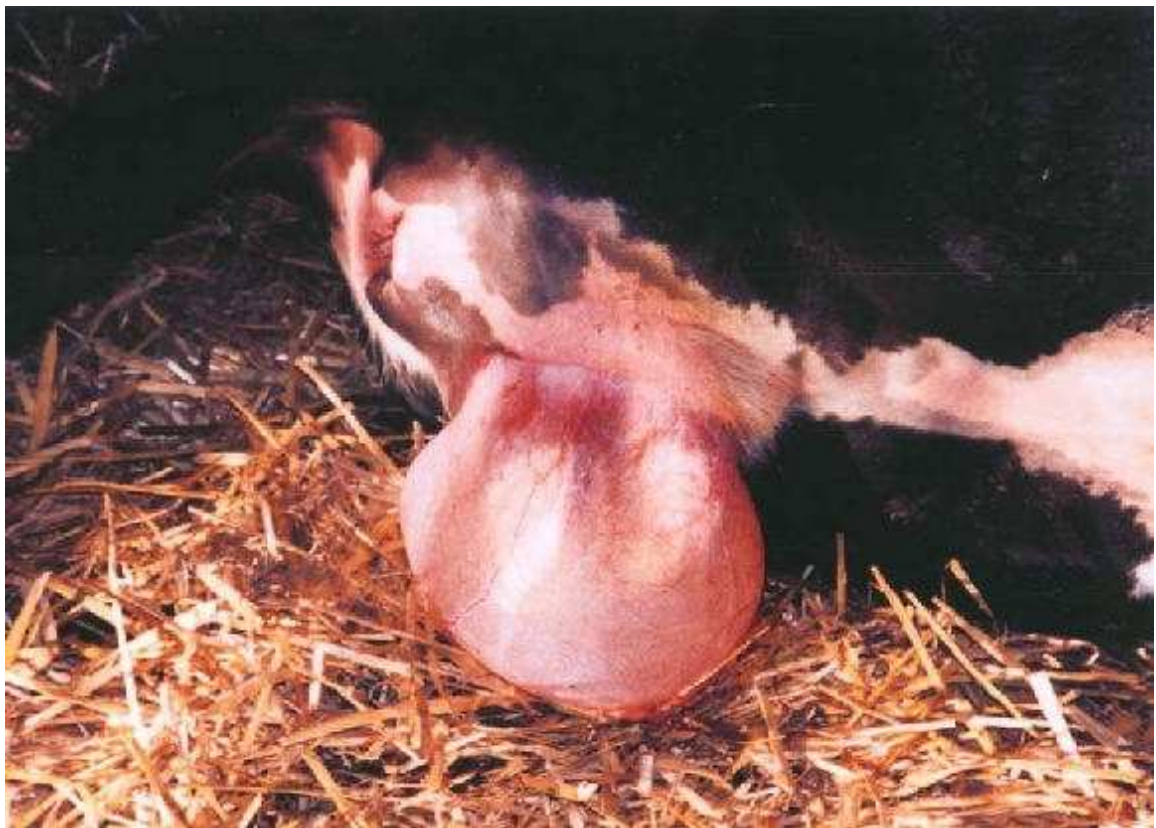


写真2 二次破水後に胎児が見えてきたところ

### ■ ここまでのタイミングで介助しようとする…

こんなトラブルが起きる可能性が高くなってしまいます。

u 産道が十分開いていません。→ 難産！ 産道損傷！！

u 胎子の体勢が十分でなく、まだ横向きや上下逆さまのままです。→ 難産！！

u 力いっぱい引っ張りがちになります。→ 産道損傷！ 胎子の足の骨折！

早過ぎる介助は難産等のトラブル発生の可能性を増加させます。

一次破水後、通常30分-2時間で二次破水が起こり、子牛が生まれます。子牛を拭くタオルや、臍の消毒用ヨーチンを用意しながら、厳重に観察しましょう。

### ■ 2時間程度経っても二次破水しないときは…

母牛に陣痛はありますか（いきんでいますか）？ 母牛は立てますか？

上に書いたのと同様にして産道に手を入れてみてください。子牛の足2本に触れますか？子牛の足は陰部の外に見えてきていますか？子牛の頭または鼻先に触れますか？子牛の上下の向きは正常ですか？産道は十分開いていますか？

すべて問題なければ介助して分娩させましょう。足胞を少し破り、よく消毒した産科グローブ等を使って、陣痛にあわせて無理なく引っ張ります。

何か変だと感じることが少しでもあるときや、介助してもうまく分娩させられないときは、正常な分娩でない可能性があります。獣医師に相談しましょう。

### ■ 二次破水したら…

陣痛が最大となると子牛の足が産道を抜け、陰部の外に見えるようになります。このころ足胞は破れドロツとした液体が出てきます。これが二次破水といわれるものです。二次破水するとまもなく（通常2時間以内に）子牛は娩出されます。



### ■ 二次破水後、約2時間経っても子牛が生まれないときは・・・

母牛に陣痛はありますか（いきんでいますか）？ 母牛は立てますか？

上に書いたのと同様にして産道に手を入れてみてください。子牛の足2本に触れますか？子牛の足は陰部の外に見えてきていますか？ 子牛の頭または鼻先に触れますか？子牛の上下の向きは正常ですか？ 産道は十分開いていますか？

すべて問題なければ介助して分娩させましょう。よく消毒した産科グローブ等を使って、陣痛にあわせて無理なく引っ張ります。

何か変だと感じることが少しでもあるときや、介助してもうまく分娩させられないときは、正常な分娩でない可能性があります。獣医師に相談しましょう。



写真3 子牛が生まれないときは、産道に静かに手を入れ、状態を確認しましょう。





写真4 問題がなければ、陣痛に合わせて、無理なく引っ張ります。

### ■ 二次破水後、2時間以上産道内に子牛がいる状態が続くと…

こんなトラブルが起きる可能性が高くなってしまいます。

u 母牛は体力を消耗します。→産後のいろいろな疾病！！

u 子牛により産道のすぐ横を走る神経が圧迫されます。→起立不能、ナックル！！

u 子牛が酸欠状態になります。→虚弱、死産！！

介助が遅れるといろいろな事故が発生する可能性が増します。

### ■ 最後に…

分娩に際しては、十分な観察を行うことがなにより重要です。早過ぎず遅過ぎず、適切なタイミングでの介助を心がけ、分娩時の事故を防止しましょう。

---